



鶏 鳴

2010年12月12日(第42号)

イエスの言葉

『一粒の麦は地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが死ねば多くの実を結ぶ』

聖書(ヨハネ福音書12章24節)

牧師 河合裕志

この言葉は何を言ったものだろう。麦の話、農業の話しか。しかしこれは何かをたどったものだろう。イエスは時々自然界に見られるものを取上げて何事かを語ろうとする。この場合は何か。

それはイエスの死を指したもの。「死ななければ」とか「死ねば」というのは自分の死のことを言っている。

普通は「一粒の麦が地に蒔かれなければ」と言う。「地に落ちて死ななければ」なんて大げさな言い方はしない。これはイエスの尋常な死に方ではなく異常な死に方、十字架刑を予想させる。

この死に方はしかし正直言っただけではない。その場合には「一粒のままである」。つまりイエスはこのようなムゴイ死を回避することにより一粒のままにとどまる。大工の仕事を引き続きなし、適当な女性と結婚し幸せな家庭を築くことになる。これって平凡だけど一番幸福なことではないか。この選択肢はあった。これは一粒のままの生き方。自分の幸せだけを考える生き方。これがすぐに悪い訳じゃない。

でもイエスは遂にこれにとどまらなかった。「だが死ねば多くの実を結ぶ」と言って

地に落ちて死ぬ方を選んだ。何故、何故、なんでそんな道を。「多くの実を結ぶ」ため。これがイエスの目標、確信。

多くの実を結ぶって？ それは多くの人々が救われる、ということにちがいない。これは大きなカケ。イエスが死ぬ、十字架にかかって。それが多くの人を救うことになる。これにイエスはかけた。それこそ命をかけて。たった一つの命をかけて。結果はどうだった？ 多くの実を結ぶに至った？ 至った、至った、大いに至った。今日世界で22億の人々がイエスの十字架で救われたんだから。22億といたら相当の数。十字架ってそんなに有難いものなのか。一粒の麦となってイエスが死んだ、それもただ死んだのではなしに十字架につけられ殺されて。ここに人類の救いは成った。私達人間の罪の全部を一点の罪のない神の子イエスが一身に荷ない神の厳しい罰を代って受けた。これにより私達に罪の赦しと永遠の命がもたらされるに至った。これは感謝なことではない？ 今や人は現世より来世にかけてとこしえに生きる者となった。これをホンキに信じ喜んでいる実が今22億粒あるということ。イエスのカケは正しかったのではないだろうか。

案内

主日礼拝 : 毎日曜日午前10時15分
 主日夕拝 : 毎日曜日午後 6時
 子どもの教会 : 毎日曜日午前 9時
 中高青年会 : 毎日曜日礼拝後
 おしゃべり会 : 毎木曜日午前10時
 聖書を学ぶ集い : 第4水曜日午前10時